

## イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校

2015年8月～2016年5月

東大薬学部3年の野村友香です。私は3年生の8月から10ヶ月間イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校へ留学していました。大学の交換留学ではなく、イリノイ大学日本同窓会による小山八郎記念奨学生として派遣されました。(詳細はこちら <http://www.illini-club.jp/>)

10ヶ月を振り返ると、本当にたくさんの貴重な体験をすることができました。日常は、平日勉強/休日は友達と遊ぶ、というルーティーンが基本になっていましたが、その他にも休みごとには様々な場所を訪れ、留学前は行くだろうとも予想していなかったような大陸を超えた場所へ行き、本や映像の中だけで知っていた世界を実際に目の前にすることができました(アメリカ国内数カ所と南米、イリノイからの冬期短期留学プログラムでヨルダン)。とりあえずずっと同じ場所にいると面白くなさそうだから行ってみよう！留学行きたい！！という思いから決心して手に入れたイリノイへの切符でしたが、イリノイに来て大切なことにたくさん気づきました。

将来何をするか。もともと大学に入るときも、進学後に薬学部を選んだときも人生をかけてやりたいことや達成したい目標というものはなく、なんとなくこっちに行っとけばうまくいかなー、なんてノリであらゆる決断を乗り切ってきました。ですから3年生になって今後に対する漠然とした焦りは少しありました。ここで一回足踏みといいますか、留学期間をはさむことでゆっくり将来について考えることができ、新しい目標を見つけることができました。アメリカでは卒業後すぐに働いたり大学院へ行くのではなく少し時間をとってその間に仕事を見つけたりする人も結構いました。いい意味でのんびりしているというか、自分が成し遂げたいことをするためなら時間をかけてでも最終的に達成できればいいやと大らかな考えと同時に、今やるべきことを全力ですするというメリハリのある考えを持つ人が多いように感じました。

アメリカという、多様性を受け入れる国。特にイリノイ大学は留学生の数が多くもあり、日本・アジアから来たからといって差別されることは決してありませんでした。一つの家族の中でもたくさん国にルーツがあることも多いので、多様性が身近に当たり前にあるのでしょう。ある時友達の家でごはんを食べに行く機会があったのですがそこで家族の話題が、我が家にどここの国の血は流れているのか、実はおばあさんのおばあさんはどここの国にいたからこの国にもルーツがある、というような話になりました。私は完全に親類は全員日本だしたぶん元をたどっても全部日本人だろうし、そもそもあまり人種を気にしたことがありませんでした。こうした話題が小さい頃から日常にあるから、自然と外の国にも目が向くようになるのだらうなと思いました。しかし多様性があるからと言って全員が完全に混ざり合っているとは言い難く、たとえば大学内でときどき Black people による抗議のようなものも行われていました。それに対して facebook 上でイリノイ白人会なるものが結成されていて(すぐに削除されましたが)、大学が介入してこの騒動を止めていました。人種によるグループは顕在化していなくともそこらじゅうにあり、完全な人種のサラダボウルと呼ぶにはまだ疑問が残る部分もありました。

勉強に集中する環境。とうもろこし畑の真ん中(つまりど田舎)にあるイリノイ大学はとても落ち着いた雰囲気、勉強に最適の環境だと思います(平日は特にでかける場所もない)。図書館はもちろん24時間空いていて、個人用の仕切られたスペースの他にもグループワーク用のスペース、大きなスクリーンやホワイトボードが設置された個室など、議論しながら学びを深めていく環境が作り上げられていました。春学期の遺伝の授業で、最終課題はinfographicをグループで一つ作るというものだったのですが、授業が終わってからもこの縁をつなげていきたい、もっといろんなことを知りたいという声があがってウェブサイトを作ってその授業メンバーによるstudent organizationまで立ち上げてしまいました。こうした自由な雰囲気の中で、なんでもやってみよう！それいいね！とアイデアがすぐ形になる勢いとエネルギーをたくさん感じられたのがよかったです。

素敵な人に本当にたくさん出会いました。春学期特にお気に入りだった教授(遺伝学)は、私が遺伝に興味があると伝えたら役に立つサイトや論文をたくさん(消化しきれないほど)教えてくださいました。ほとんど毎日のように一緒に図書館で勉強してくれた友人、私のグルメ開拓に付き合ってくれた友人、頻りに家に呼んでくれてどうでもいい話から真面目な将来の話までたくさんのお話を話した友人。よくわからない不安で心が影ってきたときは周りの人に頼ることでいつでも元気であることができました。ここでの縁はいつまでも大切にしたいですし、今後も大変なことがあったときはアメリカでがんばっている友達を思い出せば自分もがんばれる気がします。

日常の一つ一つの小さなことが今でも鮮明に思い出せて、1年間本当に幸せな時間を過ごすことができたと思っています。実のところはアメリカに渡るまでずっと休学してまで行く必要があるのかよくわからないけれど、とりあえず行ってみようと思って一歩を踏み出しましたが、今は心から行ってきてよかったと言えます。のんびりした場所で長い期間好きなことをして贅沢に時間を使ってきたので東京の忙しさに慣れてしまうのはもったいないですが、また次のステップに向けて歩みを進めていきたいです。



この中にある鐘は1日に何回か鳴るのですが毎回いろいろな曲(ハリーポッターとかクラシックとか)をキャンパス中に届けていました。



冬のある日。雪のせいでふだん 5 分で授業に行けるものが 30 分かかったこともありました。



友達はみんな優しかったです。